

池田市新環境基本計画

平成 23 年（2011 年）3 月

池 田 市

はじめに

こんなまちになったらいいな！

池田駅に降り立つと、向こうにみどりの五月山が見えた。

駅の周りはオープンカフェや雑貨屋さん、いい感じの洋服屋さん、おしゃれなお店がいっぱいで、人でにぎわっている。

栄町のアーケードを抜けると、100年以上経っていきそうなレトロな家のまちなみが残っている。

まちにごみなんて落ちていなくて、街路樹がきれいで、家々の庭や窓辺には花があふれていて目にうれしい。歩道も広々していて歩きやすい。

用事を思い出して、電車で一駅の石橋駅に行く。そこには狭い通りにお店が軒を連ねる、昔ながらの商店街があって、とても活気がある。

そんなまちだったらいいな。

「“いいまち”に住みたい」「“すてきなまち”に住みたい」「自分の住んでいるまちがもっと“いいまち”だったらいいのに」

暮らしていれば、そんな思いは誰でも持つはずです。

では“いいまち”ってどんなまち？

“すてきなまち”ってどんなまち？

考えてみると、ひどく漠然としていることに気がつきます。

ただ「“いいまち”が良い」と言っているだけでは、現状は何一つ変わりはないんです。

でも、“いいまち”にするために一歩でも踏み出せば、きっと池田は“いいまち”に変わっていくのではないのでしょうか。

この計画をつくる時に、私たちが最初に考えたのは「“いいまち”の池田って、いったいどんなまち？」ということです。

今の池田の良いところは？

自然がいっぱい！交通が便利！歴史がある！お店もある！・・・。

じゃあ、悪いところは？

車が多い！空気が良くない！自然が減った！ごみが多い！遊ぶところが少ない！・・・。

なぜか「いいとこ」より「悪いとこ」の方をたくさん思いついてしまいます。
でもそれが当然。そして大切だと思います。

「悪いとこ」は変えていかなきゃいけないポイントです。
たくさん「悪いとこ」、一つひとつを「どうすればよくできるだろう?」と考えて、
一つひとつ直して行って、全部「いいとこ」に変えることができれば、その時、理想の“いいまち・池田”ができて上がるのでは!?

環境基本計画というと、ひどく、厳めしくって、難しく感じます。

でも、この計画はそうじゃないんです。

まちのこと、ごみのこと、身近なところで「これおかしいな」「ここいやだな」と思ったことを、一つひとつ、みんなでちょっとずつ「良いところ」に変えて行って・・・。「好きだな」と思うところは失わないように大事に守って行って・・・。

そうやって、池田が“いいまち”になって、池田の周りも“いいまち”になって・・・。
輪が広がってみんなの“まち”が“いいまち”になったら、きっと地球全体が“いいまち”になるんじゃないでしょうか?

「絵空事」なんて言わずに、みんなの“いいまち・池田”を実際にめざしましょう。みんなが本気でやる気になれば、絶対、ほんとに、“いいまち”ができるんです。

もしこの計画が気に食わなければ、「気に入らんから知らん!」と言わずに、「ここがイヤ!こうしたい!」と声をあげてください。この計画だって、もっともっといいものにしていくことができるんです。

だから、まず、読んで、考えてみてください。そして、話し合ってみてください、行動してください。

仕事の合間に「いいまち」で働いてるなあ、と実感できるように。

離れて、いつか帰ってきた時に、変わらず「いいまち」であるように。

そして もっともっと、「いいまち」になるように。

一人じゃなくて、みんなで、頑張りましょう。

池田市環境問題市民委員（エコスタッフ）※

池田市環境保全審議会委員※

吉羽 真理

※いずれも前計画策定時における

新環境基本計画の策定にあたって

前環境基本計画は市民参加のもと、3年をかけて市民・事業者・行政が熟議して策定した計画でした。その計画推進に取り組んで10年、前計画に基づくパートナーシップの取り組みは様々な形で進み、池田市環境基金の設置や拠点施設エコミュージアムの開設など、大きな成果をあげました。

しかしながら、地球温暖化防止に取り組む必要性の高まりなどを受けて、計画のキャッチフレーズ「今日の目標を 明日の当たり前へ」を実現するには、官・民一体となった更なる取り組みが必要です。

このたび池田市環境保全審議会からは、環境にやさしい社会の形成に向けた施策のあり方について、厳しくも、温かい励ましとも感じられるご助言をいただきました。また、未来の環境を担う子どもたちからは、前計画から継承した理念「池田の環境目標像」の実現に向けた市民や社会に望む行動提案をいただきました。10年の歳月を経て見直した「新環境基本計画」には、これら多くの方々の思いが盛り込まれています。

これからの10年は本計画のもと、行政は行政の、市民は市民の、事業者は事業者の立場で各々が確実に取り組むとともに、この10年でつくりあげた仕組みを、みなさんと共に着実に運用することが肝要であり、これによって環境目標像により大きく近づくことができると考えています。

みなさん、これまで培ったパートナーシップの力で「環境にやさしいまち・池田」を一緒に実現させましょう。

平成23年 3月

池田市長 **倉田 薫**

計画見直しの背景と方針

(1) 見直しの背景

池田市では初めての試みであった市民参加による池田市環境基本計画（以下、「前計画」という。）の策定から10年が経過し、環境問題を取り巻く状況も大きく変化してきました。

この計画づくりを通して市民、事業者、行政との連携体制が強まり、行政のさまざまな分野で市民と協働で取り組む動きが生まれ、発展してきました。

環境問題に対する国民の意識も変化し、10年前には関心の少なかった地球温暖化問題に対する認識も深まってきました。さらに、政府による温室効果ガスの削減目標も強化され、より具体的で実効性のある計画を立てていく必要が出てきました。

また、未来の池田市民においては、地球環境の変化がもたらす影響を多大にこうむることが予測され、彼らの生活環境を守っていくという使命もはっきりとしてきました。

こうしたことから、池田市新環境基本計画（以下「本計画」という。）は、前計画の中で策定した「池田の環境目標像」の実現に向けて、次の段階へ一歩登っていくものとししました。

(2) 見直しの方針

市民参加のもとに熟慮して策定された前計画では、池田の環境目標像の実現を20年先の平成42年度（2030年度）に置いています。これは「池田の環境をこのようにしたい」という大きな方向性を示したもので、今後も大切な考え方として継承していきます。

しかし、市民や事業者、行政、さらには学校などと連携した市民参加・参画の取り組みが深まってきたことや地球温暖化防止の取り組みの具体化が求められるようになってきたことに配慮して、本計画においては、計画の位置付けや進め方、施策体系を変更するとともに、施策の充実を図りました。

また、市民や事業者、市職員の自主的な取り組みの提案や、将来を担う子どもの環境基本計画の立案など、具体的な取り組みを進める足がかりとなる内容も含めました。

さらに、計画の進行状況を判断する材料の一つである環境指標も、継続的な計測の可能性などを考慮して見直しました。